

Japanese In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Coney Island)

《コニー・アイランドの怪》

マンハッタンから地下鉄で1時間程行った辺りのブルックリン南端のビーチ沿いの一角に、“コニー・アイランド”という古い遊園地がある。この辺りは景色も良く、週末はかなりの賑わいをみせるエリアで、NYで一番古いホットドッグ屋「ネイサンズ」があることでも有名だ。そのコニー・アイランドを最後に訪れたのは、1997年の春頃。

遊園地一の人気アトラクションは、70年以上も前に作られた木製のジェット・コースター「サイクロン」だったが、そんな中に客が一人もないミニ・コースターのような乗り物があった。確か2両編成で、前後に一人ずつ乗るタイプのコースターだったと思う。妬げに古ボケた感じだったが、直ぐに乗れるということで迷わず駆け寄った。

乗り物の前で従業員らしきスパニッシュの若い兄ちゃん二人が立ち話をしていたが、チケットを渡すと無言で乗り物の前を空けてくれた。雨ざらしで変色し、ヒビ割れて破れたシートの中からはスポンジが飛び出していた。とりあえず腰を降ろそうとしたその瞬間、シートの上部が横転し、錆付いた器具が丸見えに…。

「オイオイ、しょうがねえなあ」なんて苦笑いしながらシートを元に戻すと何とか腰を据えた。足元にはシートベルトらしきものもあったが、干乾びて伸びきったままの完全な皮の“紐”状態。「一回転するわけじゃないし、まあ大丈夫だろう」なんて軽く考えながら、仕方ないから腰から膝元にその紐を垂らした。そうこうしているうちに、スパニッシュの兄ちゃんの一人が発車ボタンを押しちゃったもんだから、無情にもコースターはガタゴトと発進…。

目の前に渦巻き状に回り落ちてくるコースが見えた。その天辺を目指しておんぼろコースターはカタコトと進む。スパニッシュの兄ちゃん達は、依然立ち話に講じている。少しずつ高いところを目指すうちに気付いたのだが、その乗り物の敷地内の恐ろしく汚いこと。まさにゴミ置き場。ジュースの空き缶や紙くずから、脱ぎ捨てられた衣類、靴、錆付いた自転車の一部が転がってるは、車のエンジンや、ハンドルやタイヤまで見える始末。日本ではまず考えられないおぞましい光景に唾然とするが、もう後の祭り…。そんな景色が目に入ったもんだから、掌に嫌な汗が出てきて、必死に錆付いた手すりを握り締める自分。そして、一番高いところに辿り着くと、次の瞬間、ぐるぐる回るレールの輪の中に、“錆びた車椅子”が放置してあるのが目に入った…。得体の知れぬ恐怖と不気味さを感じながらも、コースターはグルグルと下降。

すると今度は、何故だか意味不明な笑いが込み上げてきた。カーブに突入する度、壊れたシートが傾いて体が外に投げ出されそうになりながら、必死で手すりにしがみつく自分。死の恐怖を感じながら、「ケタケタ」と腹が痛くなるほど笑い出す自分。その光景はまさに異様。

「カタコト」、「ケタケタ」と揺られること数十秒。漸く乗り物は止まった。その後も暫く笑いが止まらず、腹を抱えながら出口に向かったが、後から恐怖を覚えたのは言うまでもない。道理で客が一人もない筈だ。多分、ケガ人や死者が出るまで、改良されずにいるのであろう。まさに「死刑台のコースター」と呼ぶにふさわしい恐怖体験。しかし、こんな所にもアメリカ、NYの器のデカさを感じてしまった。

因みにこのコースターに乗り合わせていたのは、何を隠そう、その数週間後に妊娠が判明した自分の奥さん。当時お腹にいた息子も今では7歳になり、すくすくと元気に育っているが、生まれて来た時にはへその緒が首に三重に絡まっていたなんてオチも…。勿論、あのコースターとの因果関係は不明だが、今となっては無事に生還 & 無事に生誕したことを幸せに思う今日この頃です。